



「長崎果研させぼ1号」(2015年品種登録)は、県内で発見された「させぼ温州」から育成した新品種。11月下旬に完全着色する中生温州として産地への普及が期待される品種だ。しかし、詳細な品種特性は明らかでなく、栽培技術は確立されていない。

そのため、果実の着果と関係する結果母枝の着果特性を明らかにし、生産安定のために開花期の芽かき、ジベレリン(以下GA)およびプロヒドロジャクソン(以下PDJ)の植物成長調整剤を活用した着果安定技術について開発した。その成果を紹介する。

果母枝の長さは平均18・6センチで、20センチ以上の発生割合が最も大きくなる。果実が着果する割合(着果率)は、長さ10〜15センチ未満が直花果で最も大きく、

長崎果研させぼ1号 GA散布処理で 果実の着果安定

直花果と有葉果を合計した全着果でも大きくなる(データ省略)。

また開花期にGA25ppm散布+芽かきまたはGA10ppm+PDJ50ppm散布+芽かきを行うこと

GA散布処理による「長崎果研させぼ1号」の着果率

区分	2015				2016			
	着花量	結実率(%)			着花量	結実率(%)		
		直花果	有葉果	全着果		直花果	有葉果	全着果
GA25ppm+芽かき	3.0	26.5	44.7	45.2	3.8	19.6	5.6	17.8
GA10ppm+PDJ50ppm+芽かき	3.0	40.3	37.5	39.2	3.8	13.7	3.3	13.1
芽かき	3.0	15.3	14.8	16.6	3.8	12.4	8.8	12.5

で、全着果の割合は芽かきだけよりも大きくなり、着果が安定しやすくなる。

これからも着果安定と果実品質向上技術の開発に取り組んでいく。

(県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 早崎宏靖)